

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200683	事業の開始年月日	2006年3月27日	
		指定年月日	2018年3月15日	
法人名	有限会社みんなの家			
事業所名	グループホームみんなの家			
所在地	(〒 987-0622) 宮城県登米市中田町宝江新井田字並柳前57番地			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名	
		ユニット数	1	
自己評価作成日	令和5年9月	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能介護施設として同じ敷地内に、『通って、時々泊って、そして住むことが出来る』施設がある。又複合型施設として保育所や障害者GH等もあり、事業所間の交流や地域の方々、そして地域を超えて多くの方が利用していただき、グループホームの入居者様とも関わりや交流が有り、とても賑やかである。特に施設内行事や外出行事も多数計画されており、行きたかった場所や行ったことのない場所へも積極的に出掛けられるようにしている。何よりも、今までの家庭生活を継続できるように、ゆったりと尚且つ刺激のある生活を送り、自由にその方に合った生活スタイルを考え支援できるようにしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年11月7日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】
法人理念：1. 本人も家族も安全で安心に暮らせる お手伝いをします。2. 明るく、ゆったり、落ち着いて生活できる お手伝いをします。3. 気のあった人、大切な人と仲良く過ごせる お手伝いをします。4. その人がその人らしく 自由に暮らせるお手伝いをします。5. 家族や地域の方々との つながりを大切にします。
事業所理念：いつも笑顔で明るく、家庭的でのんびりと その人らしい暮らしを支えます。

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人は登米市に3ヶ所の拠点を持ち、グループホームや通所介護、サービス付き高齢者向け住宅、障がい者支援施設、保育所等、複数の事業所を運営している。地域交流を大切にしており、本部事業所では就労継続支援の一環でカフェも運営するなど、複合型福祉施設になっている。事業所は三陸道登米インターに近く、古民家風の平屋造りである。

【事業所の優れている点・工夫点】

家族や地域との繋がりを大切にした運営を行っている。地元との地域交流が盛んで、事業所の行事には多数の地域住民が参加している。特に「みんなの家の夏祭り」には、500人を超える参加がある。また、多くのボランティアを受け入れており、利用者の楽しみになっている。管理者は職員と自由に話合える関係作りの構築に努めており、このことは、利用者の日々の思いを実現するための支援にも繋がっている。遠方・近場を問わず外出の機会を多く作り、利用者の楽しみの一つになっている。防災訓練を定期的実施し、市指定の避難場所まで実際に車で移動するなど、有事の時の安全確保に備えている。重度化や急変時に対応できるよう医療連携も築かれており、利用者の安心に繋がっている。職員による8委員会(給食、研修、行事、防災、メンタルヘルス、業務改善、環境整備、車両整備)があり、委員会ごとに年間計画を立て日々の支援に繋げている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家
------	--------------

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームみんなの家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の基本理念のもと、グループホームでも毎年スタッフで検討して決定し、共有。実践に生かしている。	事業所の理念は、その時の利用者の状態に合わせて毎年職員で検討し作成している。理念は廊下に掲示すると共に、利用者が笑顔で暮らせるように支援に繋げている。バケツを活用し、傍で稲を植えて育て刈り取るなど、その人の経験が生かせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催の行事には地域の皆様をお招きしたり、逆に招待を受けたりと頻繁に行っていたが、今年度もまだコロナの影響により互いに自粛をせざる終えなかったところもある。	事業所主催の行事(夏祭り、ハロウィン、クリスマス等)には地域の人を招いて開催している。自治会に加入し、2ヶ月に1回発行する「みんなの家通信」を周辺地区の全戸に配布する等、情報発信にも努めており地域との繋がりが図られている。地元の人から旬の野菜の差入れが届き楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『オレンジカフェ』の開催や運営推進会議のメンバーに地域の多くの皆さんがいるため発信している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、各関係機関や地域代表の方々に推進委員に迎え、活発な話し合いを行うと共に、必ず全員から意見をもらえるようにしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、家族、市職員、地域包括職員、区長、民生委員、第三者委員、法人顧問、職員の15～19人で開催されている。利用者の状況、職員の研修、防災関連、事業所の活動報告等を行い、意見交換で出された助言を運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席頂き、ご指導を頂いたり、通信発行の際にはお届けし、状況を見て頂いている。	運営推進会議に市職員が出席しており、会議の際には、新型コロナウイルスの感染状況や、地区の情報提供を受けるなど協力関係が築かれている。利用者の介護度の変更に伴う助成金の申請や、運営についてなど常に相談し、連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束排除宣言』を掲げそれをもとにケアを実践している。又研修委員会で開催される研修でも勉強している。	「身体的拘束適正化指針」を作成し、年に2回研修を開催するとともに、毎月開催のスタッフ会議でも、言葉遣いや行動を確認し、日々のケアの改善に繋げている。外出要求が強い利用者はいないが、敷地内のヤギを見に行く、散歩に出かけるなど職員は利用者の気分転換を図っている。玄関の施錠は、夜間帯のみである。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修委員会で行われる研修会に参加したり、スタッフ会議での検討もある。現場でも職員同士で声を掛け合い防止に努めている。	事業所の職員が担う委員会が研修計画をたて、身体拘束廃止について学習を行い理解を深め、職員全体で虐待防止にも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修でも学ぶ機会が有り、また以前には実際に入所されていた方もいたため、実践しながら勉強していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明はもちろんの事、入居前・入居後見学時にも説明は行い、相談にも応じている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では家族一人一人より意見や要望をいただくよう勧めている。	運営推進会議や事業所への来訪時に、家族から意見・要望を聞き運営に反映している。家族からの外出要望に応え、4月には松島へ花見に出かけたり、一人ひとりの利用者の思いや好きなこと（音楽、趣味など）を把握し支援に繋げている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期会議に参加し意見を聞いたり、必要な時は面談や気軽に声をかけるようにしている。	年2回、管理者は職員との面談を実施し、意見を聞く機会としている。仕事の悩み、人事異動、休日取得等々、意見・要望を聞き必要なアドバイスを行っている。職員の意見を反映し、廊下に利用者の目線に合わせて掲示板を設け、手作りした作品を展示している。資格取得には参加費、教材、交通費など助成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的や必要時に一人一人と面談を行い、仕事への取り組みや要望、悩みなどを確認するようにしている。資格取得に関し支援もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を推奨し、随時参加できる環境を整えている。内部研修は年間計画を立て確実に勉強できるようにしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に所属し、通常は市内外への研修に参加することで、交流が出来るように参加を勧めている。	宮城県グループホーム協議会に所属しており、研修に参加している。職員が他の施設で働く体験をする取り組みを活用し、経験を積むことでケアの質の向上へ繋げる機会を設けたり、同業者間の情報交換や職員間の交流を図っている。他の施設に「みんなの家」での活動報告を発表に行った事もある。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談からじっくりとお話を聴きとり、安心して入所できるように努めている。また入所後に関しても、常に傾聴の姿勢で関りを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様同様に、傾聴し特に苦労話は良く聞き取る様にしている。入所後であってもいつでも話を聴く姿勢、不安を相談できる環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設担当のケアマネージャーがアセスメントをしっかりと行い対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様と職員は一方的な関係にならないように、助け・助けられながらお互いを支えあい家族の様な関係を築けるよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と職員は一方的な関係にならないように、助け、助けられながら、お互いを支え合い、家族の様な関係を築けるよう努力している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人へ会うため、外出や連絡を欠かさず、行事や誕生会にもお招きしている。	知人や馴染みの人が来訪した際には、居室で懇談できるように支援して、関係性が途切れないよう取組んでいる。利用者が行きたい場所について、家族と相談しながら希望をかなえられるよう職員が同行することもある。行き付けの美容師に来てもらえるよう事業所訪問を依頼することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や特徴を把握し、関係が万遍なくスムーズに図れるようにし、時に架け橋をなって関係性を保っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居利用者様は登米市内の方が多く、退去後であってもお目にかかる機会もある。気軽に声をかけたり、通信を送り関係を築いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをしっかりと行う意味でも、ご本人様の話をよく聴き、日常会話の中からも組み取っていく。意思疎通困難な方は、ご家族様から聞き取ったり、生活歴から読み取っている。	入居時に利用者や家族の意向・思いを詳しく把握し、日々の支援に繋げている。餅を食べたいという利用者のリクエストには「花泉のボタン園」に出かけ餅バイキングを楽しむなど、思いを叶えるよう努めている。意思疎通が困難な利用者には、写真を見せながら選択しやすいように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様からしっかりと話を聴き、アセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント及び24時間パターンシートを活用し、把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や関係者と話し合いを持ち確認。又、事業所間では会議で話し合い、共有できるようにしている。	生活リハビリを中心に身体機能を維持するように毎月行われるスタッフ会議で話し合い、介護計画に生かしている。3ヶ月毎にかかりつけ医、看護師、管理者、ケアマネ、家族から意見を聞き、年2回、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間パターンシートや記録・会議を活用し、モニタリング・見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や状況、状態を把握しニーズに合った対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアをはじめ、地域で活用できる資源を最大限活用しながら生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人様やご家族様の希望で決定される。又、状態の変化により変更する場合も提案をしたり相談している。	入居時に希望を確認し本人の希望を優先して、かかりつけ医を決めている。通院は家族付添いを基本とし、受診時には事業所でのバイタル等の情報を伝え、家族から受診結果の報告を受け、職員間で情報共有している。協力医療機関は往診医で、ここをかかりつけ医としている利用者が多い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員には常に情報を共有し、報告・連絡・相談を欠かさずに行い、利用者様の体調管理を行っている。夜間でもオンコール対応がなされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の連携室と連携し、情報の共有を行っている。通常であれば、入院時は週に何度か面会に行き、担当看護師と情報交換を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で意思確認をとっており、希望文書を保管している。定期的に変更がないか確認し、最期の段階に入った際にも最終確認を行っている。	「重度化対応に関する指針」を作成し、入居時に意思確認書を作成している。昨年と今年と看取りが続いており、お見送りの際には利用者も立ちあったり、居室には遺影を飾り利用者と一緒に線香を供えている。看取り後の職員へのケアにも努めている。協力医療機関とは24時間連携体制が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員による応急処置や対応について学び、また施設内研修会にも参加している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを参考に、防災訓練も定期的に関催されている。	火災、風水害、地震対応マニュアルを作成している。年2回、夜間訓練を含め、消防署立会のもと防災訓練を実施している。避難訓練では、かかった時間を計測しながら、利用者と一緒に市指定の避難場所まで実際に避難する訓練もしている。備蓄は1週間分保管している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルをもとに研修会を行っている。目立たない羞恥心に配慮し、声がけなどの対応に注意している。	年1回、接遇やプライバシー保護の研修をマニュアルに沿って行っている。基本名前に「さん」を付けて呼んでおり、排泄介助時はさりげなく声掛けし、居室に誘導するなど利用者の尊厳に配慮した支援に取り組んでいる。各居室には名札を掛けずに、折り紙を飾り、色で区別している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話からご本人様の思いを探り、沢山の思いを思い出せるような会話の仕方に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『したいこと』『したくないこと』を日常会話から聞き取り、希望に沿った対応に心がけている。どうしても難しい場合のみ代替え案を出す等行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や理髪時の希望等を確認し、希望に沿うようにしている。外出時はおしゃれ心がけ、行事の際は一張羅やご家族様からの協力をもったりしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事を提供し、その能力に合わせて入居者様にも一緒に行ってもらっている。楽しみ作りの行事食は、管理栄養士や給食委員会が中心となり検討されている。	利用者の好みを把握し、状態に合わせ、事業所で3食手作りの食事を提供している。毎月の行事食の他に、誕生会、中庭でのバーベキュー大会、芋煮会、夏祭りなど四季折々楽しみながら食事ができるように支援している。利用者は新米の時期には自分でおにぎりを握ったり、柿の皮をむき干し柿を作ったり、できることを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来る限り自分の力を活かして摂取できるように、看護師や管理栄養士と相談をしながら状態把握をしすすめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケア方法を実施し、行えるよう支援している。義歯の管理は状態に応じ、職員管理の方もいる。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを個々に細かに記録し、記録を活かしながら排泄のコントロールをしている。最後まで出来るだけトイレでの排泄を目指し、検討会議も開催している。	排泄パターン表を作成し、状態に合わせて声掛けをしたり、自立に向けてトイレで排泄ができるよう支援している。夜間帯も利用者により、安全を考慮し人感センサーなどで動きを感知し、できるだけトイレへの誘導を行うなどしている。希望により同姓介助も実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師や管理栄養士と相談しながら、飲食の記録をもとに日々状態を把握している。便秘対応には乳製品や排便しやすい飲料等、個々に合ったものを提供している。主治医への相談も行いながら便秘改善に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	状態や希望に合わせた入浴方法や回数での入浴対応。無理強いのせず、入りたい時を大切にしている。季節を感じてもらおう工夫も入浴時に行っている。	週3回を基本に、希望を聞き状態に合わせて、入浴支援をしている。風呂は木の香りのする檜風呂で、入浴剤や菖蒲湯・柚子湯など、季節を感じる工夫も取入れ、湯上り後には乾燥予防にローションを使用するなど気持ちよく入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合った環境（照明・空調・寝具）を整え、体調や希望に応じて寝起き時間を変えて休んでもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員が管理し、誤薬や服用に間違いのないようにしている。薬情報に元づき把握したり、薬剤師に確認や主治医への相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好まれる事や、生活歴から探り実践。『みんなと同じ』を無理強いせず、『したいこと』を優先して行えるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画をもとに実施しているが、現在もコロナの状況に気を付けながら出来る範囲内で行っている。ご家族様にも協力頂き、買い物をしたりもしている。急な外出希望にも出来るだけ対応してきている。	年間計画をたて、近隣の花見だけではなく、八木山や松島、栗原電鉄後など、車椅子対応の車両を利用して遠方にも外出している。家族の協力を得ながら、買い物支援やクリームソーダを飲みに行くなど、また、急な外出希望にも応えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力やご本人様の思いを大切に、金銭を所持したり買い物をしたりしている。外出時希望により買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間に制限なく、かかってきた電話は取次ぎ、入居者様のかける電話は無償で貸し出しをしている。手紙は切手購入や投函支援を行い、いつでもやり取り出来ている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間を確保し、自然光を取り入れながら照明でも調整を行っている。室温や湿度調整も欠かさず、視覚からのぬくもりも大切に冬季は薪ストーブで暖を取っている。混乱しないくらいの季節に合った飾りつけを行っている。	共用空間には、自然光の明るさを調整できる天窓があり明るい。冬季は暖炉を使用し、視覚からも暖かさが感じられるようにしている。温・湿度は職員によって適切に管理され、廊下には、利用者の手作り作品を飾るなど、季節感を感じながら居心地良く過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内外にちょっとしたスペースを準備しており、利用者同士や職員とも個別に相談や交流が出来るようになっている。暖かい時期には共有の庭にある東屋にも行って過ごすことが出来る。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様それぞれが思いのこもった物を持ち込んでいる。趣味の物、作品、写真など思い思いに飾られている。家具やベットも使い慣れたものを使用している。	各室にはトイレ、洗面台、クローゼット、エアコンを設置している。利用者は仏壇、テレビ、冷蔵庫、いす、テーブル等々思い思いの物を持参している。家族写真や敬老会のお祝い、詩吟の免許証などを飾っている利用者もあり、その人らしい居室の設えになるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プライバシー且つ残存能力を活かすことが出来るように工夫をしたり、置くものを配慮したりしている。		